

令和4年度 第2回 東小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年6月13日（月） 午前9時から午後11時まで
- 2 開催場所 東小学校 1階 会議室
- 3 出席委員 小名木 秀雄、松下 克幸、高木 邦子、今中 秀裕、
中川 清子、中村 将義、杉山 晴康、大脇 加名、竹山 有希
- 4 欠席委員 古橋 陽介
- 5 学 校 大石 泰三（校長）、杉山 章子（教頭）、
船越 裕康（CS担当教職員）、伊藤 リカ（CSディレクター）
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 協議事項
（1）キャリア育成を生かした特色ある学校づくりについて
（2）課題の整理と改善の方向性について
（3）学校評価アンケートの評価項目について
- 9 会議録作成者 CSディレクター 伊藤 リカ
- 10 会議記録

司会のCS担当職員から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）キャリア育成を生かした特色ある学校づくりについて

校内視察後、議長から、委員に意見を求めたところ、以下の発言があった。

- ・ 教師がそれぞれの特色を生かした授業を行なっていることが分かり、良かった。一方、黙想の時間にカウントダウンを取っているクラスがあり、何のために黙想を行なっているのか不明であった。教師が話し合いを行ない、目的や方向性を定めて実行するべきだと感じる。（中村委員）
- ・ 子供たちの教室と児童会での活動の違いを見ることができ、児童会では落ち着きがない子供も、授業では集中していたため、ほっとした。また、子供たちが一生懸命授業を受けている姿を見て、気を抜くことができる児童会では多少騒いでいても仕方が無いと思った。さらに、6年生の挨拶はともしっかりしており、小学校生活での教師や子供たちの地道な積み重ねが成長につながるのだと思った。（中川委員）
- ・ 3年生のオープン教室は、一方が活発な外国語活動の授業で、一方が落ち着いた算数の授業であったため、お互いのクラスに影響がないのかと疑問に思った。また、授業に参加していない子供も見かけたため、違和感があった。一方、パソコンや書道の教材は進化しており、子供たちが使いこなしていることに驚いた。（今中委員）
→オープン教室については、今回は参観会のためのものであった。普段は壁を取り付けて授業を行なっている。（船越）

- ・ オープン教室は4年生までは集中力が欠けていると感じたが、5年生以降は集中しており、自分がやるべき事が分かっていると感じた。一方、各教師は複雑な目標を構造的に理解し、キャリア育成を行なっているのかは疑問がある。(高木委員)
→根本的な目標の構造は「優しい・元気・夢を持つ」の3つであり、これは、各教師が理解した上でキャリア育成の手立てとして取り組んでいる。(船越)
→キャリア教育は毎年重点とする目標をピックアップし、教師のみではなく、子供たちが意識するよう、各教室で提示している。これは一年間を通した学校全体のキャリア教育の目標であり、授業においては意識して取り組んでいる。(校長)
- ・ 昔と比べると現代の子供たちは外国人とのコミュニケーションに慣れていると感じた。多様化する時代に対応するために1年生からより多くの時間を外国語学習に充てるべきなのではないかと思う。一方、書道の時間においても自由な表現が受け入れられており、面白かった。異文化と日本の伝統の両方が大切だと感じた。(松下委員)
- ・ オープン教室は声の大小の影響が大きいのではないか。また、教室から出て、2・3人の子がふらふらしていることが気になる。教室に入れるような環境作りが重要でないか考える。(松下委員)
- ・ 黙想時の雰囲気各教室により異なっており、5年生以降は落ち着いて行なっていたため、成長を感じることができた。オープンスペースでの授業は、大人が感じているほど子供は気にしておらず、集中しているように感じた。悪い面だけではなく、良い面もあるのではないかと思う。(大脇委員)
- ・ 1年生から2年生の変化が素晴らしく、教師と子供たちの努力を見ることができた。高学年は特に、自分のやるべき事、周りを見る力がついており、雰囲気の良さを感じた。(竹山委員)

(2) 課題の整理と改善の方向性について

- ・ 昔と比べると学級の人数が50名から30名と約20名減っているが、教員の業務負担が課題となっている中、何が大変なのかを知りたい。(松下委員)
→各クラスの生徒人数は減少している一方、家庭への配慮や、子供一人一人に応じた個別の対応が大変になったことが、業務量増加の原因であると考え。(船越)
→ICTの利用により、教師の研修が増加したことも業務量増加の原因になっていると思う。文科省の調査や、取りまとめ、書類の増加等原因により、教師の勤務時間が長時間に及び、教員志望率に影響を与えている。(高木委員)
- ・ 体育の授業では未だにマスクを着用していた。外した方が良いのではないか。(松下委員)
→体育時はマスクを外すよう指導しているが、その時の気温や、子供たちに「恥ずかしい」等の気持ちがあり、全員外すことはできない。(船越)
- ・ 学年を追うごとに成長が見られ、6年間の学校生活の重要性を感じた。一方、各クラス席が空いており、休みなのか教室にいることができないのか不明であった。また、このような子供たちに対してはどのように対応しているのかも不明であり、配慮が必要だと思う。(杉山委員)

→空席の生徒は体調不良等様々であるが、教室にすることができない子供については、保護者と相談の上、個に応じた指導を進めている。学校には、スクールカウンセラー、SSW、支援員等、様々な立場の方が配置されていて、連携を取っているが、保護者との連携が、まだ十分にとれていないケースもあり、子供の困り感につながってしまうこともある。個々の特性に寄り添いながら、子供の成長を目指して、大人が連携し、環境を整えることが大切である。(教頭)

- ・ 発達障害の子供の保護者に対して、納得し、理解するような説明が不足している。行政や国の適切な対応が重要であるが、現実の対応不足により教師負担の増加につながっている。このような状況においても、不信感を払拭するため、空席の子供たちそれぞれの状況の提示が必要なのではないかと。(松下委員)

→保護者のニーズや子供の悩みはそれぞれであり、カウンセラーが不足している。これは、教師の業務負担の増加につながっている。また、今後は、発達相談の場が広がれば、保護者の理解も深まると考える。(船越)

(3) 学校評価アンケートの評価項目について

- ・ 一貫性が認められると思うが、項目8の「学校を開く」は程度によって教師の負担が増えるのではないかと。(高木委員)

→コロナの影響により、子供たちの様子を伝える機会が減少した。また、ICT環境で成長してきた若手教員の活躍の場でもあるため、ブログ等で情報の発信をしているが、学校規模に対して、閲覧数が少ないため、情報の発信方法を考え直す必要がある。(校長)

- ・ 保護者は何を知りたいのかが不明。教師の業務量削減のため、ブログ等情報の発信を制限しても良いのではないかと。(杉山委員)

→ブログは保護者のニーズがあるため行なっている。(校長)

→ブログの発信は、学校側から一方的に行うのではなく、保護者や地域の協力を仰ぐことが良いのではないかと。(中村委員)

→学校の雰囲気を知りたい保護者には、直接授業を見に来てもらい、ブログは行事のみで良いのではないだろうか。(高木委員)

→教育目標と方針は総会で説明しているが、ブログは学校での取り組みを理解してもらうためのものでもある。(校長・船越)

- ・ ブログでは教育目標までは伝わりにくい。ブログに関しては不特定多数への公開ではなく、学校の関係者のみ閲覧可能とするのが良いと思う。また、文科省や教育委員会からの義務としてではなく、東小としては具体的にどのように考えて活動しているのかということが分かれば、地域も協力・評価しやすい。(今中委員)

- ・ アンケート内容である挨拶等生活のしつけは、会話を通して家庭の中で行うべきであり、学校はそこまでやる必要が無いのではないかと考える。(小名木委員)

○ その他報告事項等

- ・ 教員が土日に当番制で行なっている花壇の水やりをスポーツ少年団で行うことになった。(大脇委員)

- ・ さくら連絡網の登録依頼
- ・ 司会から、次回会議は、令和4年10月20日（木）午後9時00分から東小学校会議室で開催する旨の報告があった。次回議長については、杉山委員から高木委員を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。